

2節 下地調整

7. 2. 1 施工一般

塗替えで、表 7.2.1 から表 7.2.7 までのRB種の場合の既存塗膜の除去範囲は、特記による。特記がなければ、劣化部分は除去し、活膜部分は残す。

7. 2. 2 木部の下地調整

木部の下地調整は表 7.2.1 により、種別は特記による。特記がなければ、不透明塗料塗りの場合は、RB種とする。

表 7. 2. 1 木部の下地調整

工 程	種 別			塗料その他			日本ペイント 商品名	面の処理
	RA 種 種	RB 種 種	RC 種 種	規 格 番 号	規 格 名 称	種 類		
1 既存塗膜の除去	○	—	—	—	—	—	—	スクレーバー、研磨紙等により、全面除去する。
	—	○	—	—	—	—	—	スクレーバー、研磨紙等により、劣化部分を除去し、活膜は残す。
2 汚れ、付着物除去	○	○	○	—	—	—	—	素地を傷つけないように除去する。油類は、溶剤等でふき取る。
3 研磨紙 ずり	○	○	—	研磨紙 P 120～220			—	露出素地面、既存塗膜面を研磨する。
	—	—	○	研磨紙 P 240～320			—	
4 節止め	○	—	—	JASS 18 M-304	木部下塗り用調合ペインツ	合成樹脂	H i-CR 下塗白(無鉛) 塗料用シナ-A 0～5%	節及びその周囲に、はけ塗りを行う。
				JASS 18 M-308	セラックニス類	白ラックニス1種	—	
5 穴埋め	○	—	—	JIS K 5669	合成樹脂エマルションパテ	耐水形	H i ビニレック ス耐水パテ (仕上)	割れ、穴、隙間、くぼみ等に充填する。
6 研磨紙 ずり	○	—	—	研磨紙 P 120～220			—	穴埋め乾燥後、全面を平らに研磨する。

- (注) 1. やに処理は、やにを、削り取り又は電気ごて焼きのうえ、溶剤等でふき取る。
 2. ラワン、しおじ等導管の深いものの場合は、必要に応じて、工程2の後に塗料の製造所の指定する目止め処理を行う。
 3. 合成樹脂エマルションパテは、外部に用いない。
 4. JASS 18 M-304 及びM-308 は、日本建築学会材料規格である。
 5. 工程4の節止めにおいて、合成樹脂調合ペインツ塗り及びつや有り合成樹脂エマルションペインツ塗りの場合はJASS 18 M-304 を適用し、それ以外はJASS 18 M-308 を適用する。

7. 2. 3 鉄鋼面の下地調整

鉄鋼面の下地調整は表 7.2.2 により、種別は特記による。特記がなければ、RB種とする。

表 7. 2. 2 鉄鋼面の下地調整

工程	種別			塗料その他	面の処理
	RA 種 類	RB 種 類	RC 種 類		
1 既存塗膜の除去	○	—	—	—	ディスクサンダー、スクレーパー等により、塗膜、鏽等を全面除去する。
	—	○	—	—	ディスクサンダー、スクレーパー等により、劣化しそうな部分、鏽等を除去し、活膜は残す。
2 汚れ、付着物除去	○	○	○	—	素地を傷つけないようにワイヤブラシ等により、除去する。
3 油類除去	○	○	—	—	既存塗膜を除去した範囲を溶剤ぶき。
4 研磨紙づくり	○	○	—	研磨紙 P 120 ~ 220	全面を平らに研磨し、研磨かす等を除去する。
	—	—	○	研磨紙 P 240 ~ 320	

7. 2. 4 亜鉛めっき鋼面の下地調整

亜鉛めっき鋼面の下地調整は表 7.2.3 により、種別は特記による。特記がなければ、RB種とする。

表 7. 2. 3 亜鉛めっき鋼面の下地調整

工程	種別			塗料その他	面の処置
	RA 種 類	RB 種 類	RC 種 類		
1 既存塗膜の除去	○	—	—	—	ディスクサンダー、スクレーパー等により、塗膜、鏽等を全面除去する。
	—	○	—	—	ディスクサンダー、スクレーパー等により、劣化しそうな部分、鏽等を除去し、活膜は残す。
2 汚れ、付着物除去	○	○	○	—	素地を傷つけないようにワイヤブラシ等により、除去する。
3 油類除去	○	○	—	—	溶剤ぶき
4 研磨紙づくり	○	○	○	研磨紙 P 240 ~ 320	全面を平らに研磨し、研磨かす等を除去する。

(注) 無塗装既存亜鉛めっき鋼面に塗装を行う場合は、RA種とし、工程1を省略する。

7. 2. 5 モルタル面及びせっこうプラスター面の下地調整

モルタル面及びせっこうプラスター面の下地調整は表 7.2.4 により、種別は特記による。特記がなければ、RB種とする。

表 7. 2. 4 モルタル面及びせっこうプラスター面の下地調整

工 程	種別			塗料その他			日本ペイント 商品名	面の処置
	RA 種 種	RB 種 種	RC 種 種	規格 番号	規格名称	種類		
1 既存 塗膜の 除去	○	—	—	—			—	ディスクサンダー、ス クレーパー等により、 全面除去する。
	—	○	—	—			—	ディスクサンダー、ス クレーパー等により、 劣化しそい弱な部分を 除去し、活膜は残す。
2 汚れ、 付着物 除去	○	○	○	—			—	素地を傷つけないよう にワイヤブラシ等によ り、除去する。
3 ひび割れ 部の補修	○	○	—	—			—	4章[外壁改修工事]に によるひび割れ部の補修 は、特記による。
4 吸込止め	○	○	—	JIS K 5663	合成樹脂エ マルション シーラー	—	水性透明 シーラー* 水道水 100%	既存塗膜を除去した範 囲に塗り付ける。
5 穴埋め、 パテかい、	○	○	—	JIS A 6916	建築用下地 調整塗材	C-1	1材フィラー #200	ひび割れ、穴等を埋め て不陸を調整する。
				JIS K 5669	合成樹脂エ マルション パテ	耐水形	H i ピニレッ クス耐水パテ (仕上)	
6 研磨紙 ずり	○	○	—	研磨紙 P 120 ~ 220			—	乾燥後、表面を平らに 研磨する。
	—	—	○	研磨紙 P 240 ~ 320			—	
7 パテ しごき	○	—	—	JIS A 6916	建築用下地 調整塗材	C-1	1材フィラー #200	全面をしごき取り平滑 にする。
				JIS K 5669	合成樹脂エ マルション パテ	耐水形	H i ピニレッ クス耐水パテ (仕上)	
8 研磨紙 ずり	○	—	—	研磨紙 P 120 ~ 220			—	乾燥後、全面を平らに 研磨する。

(注) 1. アクリル樹脂系非分散形塗料塗りの場合、工程 4 の吸込止めは、塗料の製造所の指
定するものとする。

2. 合成樹脂エマルションパテは、外部に用いない。

* 吸込止めには、**水性透明シーラー**以外に、**水性ホワイトシーラー**、**水性シミ止めシ
ラーⅡ**、**水性カチオンシーラー透明**、**水性カチオンシーラーホワイト**も適用可能です。

7. 2. 6 コンクリート面、ALCパネル面及び押出成形セメント板面の下地調整

(1) コンクリート面及びALCパネル面の下地調整は表 7.2.5 により、種別は特記による。

特記がなければ、RB種とする。ただし、8節 [耐候性塗料塗り (D P)] の場合は、(2)による。

表7. 2. 5 コンクリート面及びALCパネル面の下地調整

工 程	種別			塗料その他			日本ペイント 商品名	面の処置
	RA 種 類	RB 種 類	RC 種 類	規格 番号	規格名称	種類		
1 既存 塗膜の 除去	○	—	—		—	—	—	ディスクサンダー、ス クレーパー等により、 全面除去する。
	—	○	—		—	—	—	ディスクサンダー、ス クレーパー等により、 劣化しそい弱な部分を 除去し、活膜は残す。
2 汚れ、 付着物 除去	○	○	○		—	—	—	素地を傷つけないように にワイヤーブラシ等に より、除去する。
3 ひび割 れ部の 補修	○	○	—		—	—	—	4章[外壁改修工事]に によるひび割れ部の補修 は、特記による。
4 吸込 止め	○	○	—	JIS K 5663	合成樹脂エ マルション シーラー	—	水性透明 シーラー※ 水道水 100%	既存塗膜を除去した 範囲に塗り付ける。
5 下地 調整 塗り	○	—	—	JIS A 6916	建築用下地 調整塗材	C-1、 C-2、 CM-2 又はE	(C-1) 1材フィラー ♯200	全面に塗り付けて 平滑にする。
							(C-2) 1材カチオン フィラー	
	—	○	—	JIS A 6916	建築用下地 調整塗材	C-1、 C-2、 CM-2 又はE	(E) アンダーフィ ラーS、 アンダーフィ ラーAL	既存の塗膜の除去部分 の不陸を調整する。
6 研磨紙 ずり	○	○	—	研磨紙P 120～220			—	乾燥後、表面を平らに 研磨する。
	—	—	○	研磨紙P 240～320			—	
7 パテ しごき	○	—	—	JIS A 6916	建築用下地 調整塗材	C-1	1材フィラー ♯200	全面をしごき取り平滑 にする。
				JIS K 5669	合成樹脂エ マルション パテ	耐水形	H i ビニレッ クス耐水パテ (仕上)	
8 研磨紙 ずり	○	—	—	研磨紙P 120～220			—	乾燥後、全面を平らに 研磨する。

- (注) 1. コンクリート面の場合は、工程4は省略する。
 2. 合成樹脂エマルションパテは、外部に用いない。
 3. 工程5の建築用下地調整塗材のC-1、C-2、CM-2又はEの使い分けは、4.5.5【既存コンクリート打放し仕上げ外壁、既存モルタル塗り仕上外壁等の下地調整】の(ア)及び(ウ)による。
 なお、ALCパネル面において、下地調整塗材Eを用いた場合、工程4を省略する。

※ 吸込止めには、水性透明シーラー以外に、水性ホワイトシーラー、水性シミ止めシーラーⅡ、水性カチオンシーラー透明、水性カチオンシーラーホワイトも適用可能です。

- (2) 押出成形セメント板面及び8節【耐候性塗料塗り(DP)】におけるコンクリート面の下地調整は、表7.2.6による。ただし、種別は、塗り工法に応じた節の規定による。

表7.2.6 コンクリート面及び押出成形セメント板面の下地調整

工 程	種別			塗料その他			日本ペイント商品名	面の処置
	RA種	RB種	RC種	規格番号	規格名称	種類		
1 既存塗膜の除去	○	—	—		—	—	—	ディスクサンダー、スクレーパー等により、全面除去する。
	—	○	—		—	—	—	ディスクサンダー、スクレーパー等により、劣化しそうな部分を除去し、活膜は残す。
2 汚れ、付着物除去	○	○	○		—	—	—	素地を傷つけないようにワイヤブラシ等により、除去する。
3 ひび割れ部の補修	○	○	—		—	—	—	4章【外壁改修工事】によるひび割れ部の補修は、特記による。
4 下地調整塗り ^{(注)1}	○	—	—	JIS A 6916	建築用下地調整塗材	C-1、C-2又はCM-2	(C-1) 1材フィラー#200	全面に塗りつけて平滑にする。
				JIS A 6916	建築用下地調整塗材	C-1、C-2又はCM-2	(C-1) 1材フィラー#200	
	—	○	—	JIS K 5669	合成樹脂エマルションパテ	耐水形	(C-2) 1材カチオンフィラー	既存の塗膜の除去部分の不陸を調整する。
							H i ピニレックス耐水パテ(仕上)	
5 吸込止め	○	※	○	JASS 18 M-201	反応形合成樹脂シーラーおよび弱溶剤系反応形合成樹脂シーラー	—	浸透性シーラー(新)、ファイン浸透シーラー(透明・ホワイト)無希釈	既存塗膜を除去した範囲に塗り付ける。
6 パテしごき	○	—	—	JASS 18 M-202	反応形合成樹脂パテ	2液形エポキシ樹脂パテ	タフガードEパテN-2	全面をしごき取り平滑にする。
7 研磨紙づくり	○	—	—	研磨紙P120～220			—	乾燥後、全面を平らに研磨する。
	—	—	○	研磨紙P240～320			—	

- (注) 1. 押出成形セメント板面の場合は、工程 4 を省略する。
2. 8 節〔耐候性塗料塗り（D P）〕におけるコンクリート面の場合、工程 4 の建築用下地調整塗材の C-1、C-2 又は CM-2 の使い分けは、4.5.5〔既存コンクリート打放し仕上げ外壁、既存モルタル塗り仕上外壁等の下地調整〕(7)による。
3. 工程 5 のシーラー及び工程 6 のパテは、上に塗り重ねる塗料の製造所の指定するものとする。
4. JASS 18 M-201 及びM-202 は、日本建築学会材料規格である。
5. 屋内で現場塗装する場合、工程 5 の吸込み止め及び工程 6 のパテしごきに使用する材料は、上に塗り重ねる塗料の製造所の指定する水系塗料とする。
吸込み止め：**水性カチオンシーラー透明**、又は**水性カチオンシーラーホワイト**
パテしごき：**H i ビニレックス耐水パテ（仕上）**

* **H i ビニレックス耐水パテ（仕上）** は屋外及び水回り部には使用しないでください。

※ R A 種の場合は、**浸透性シーラー（新）** をご使用ください。

7. 2. 7 セッコウボード面及びその他ボード面の下地調整

セッコウボード面及びその他ボード面の下地調整は表 7.2.7 により、種別は特記による。
特記がなければ、RB種とする。

表7. 2. 7 セッコウボード面及びその他ボード面の下地調整

工 程	種別			塗料その他			日本ペイント 商品名	面の処置
	RA 種 種	RB 種 種	RC 種 種	規格 番号	規格名称	種類		
1 既存 塗膜の 除去	○	—	—	—			—	全面除去する。
	—	○	—	—			—	劣化しづい弱な部分を 除去し、活膜は残す。
2 汚れ、 付着物 除去	○	○	○	—			—	素地を傷付けないように 除去する。
3 穴埋め パテ かい	○	○	—	JIS K 5669	合成樹脂 エマルシ ョンパテ	一般形	Hi ピニレック スエコ仕上げパテ	釘頭、たたき跡、傷等 を埋め、不陸を調整す る。
				JIS A 6914	セッコウボ ード用目地 処理材	ジョイン トコンパ ウンド	—	
4 研磨紙 ずり	○	○	—	研磨紙 P 120~220			—	乾燥後、表面を平らに 研磨する。
	—	—	○	研磨紙 P 240~320			—	
5 パテ しごき	○	—	—	JIS K 5669	合成樹脂 エマルショ ンパテ	一般形	Hi ピニレック スエコ仕上げパテ	全面をしごき取り平滑 にする。
				JIS A 6914	セッコウボ ード用目地 処理材	ジョイン トコンパ ウンド	—	
6 研磨紙 ずり	○	—	—	研磨紙 P 120~220			—	乾燥後、全面を平らに 研磨する。

- (注) 1. 屋外及び水回り部の場合は、工程3及び工程5の合成樹脂エマルションパテは、上
に塗り重ねる塗料の塗料の製造所の指定するものとする。(Hiピニレックスエコ仕
上げパテは屋外及び水回り部には使用しないでください。)
2. 工程3及び工程5のセッコウボード用目地処理材は、素地がセッコウボード面の場
合に適用する。
3. けい酸カルシウム板面の場合は、工程3の前に吸込止めとしてJASS 18 M-201に基
づく塗料(浸透性シーラー(新)またはファイン浸透シーラー(透明・ホワイ
ト))を全面に塗る。ただし、屋内で現場塗装する場合、吸込止めに用いる材料
は、上に塗り重ねる塗料の製造所の指定する水系塗料(水性カチオンシーラー透
明、又は水性カチオニンシーラーホワイト)とする。
4. 仕上材が仕上塗材の場合、工程3及び工程5に用いる塗料その他は、仕上塗材の製
造所の指定するものとする。